

【学校だより】

**三星霜**

佐世保市立山澄中学校

【学校教育目標】

**気づき、考え、正しいことを実行する生徒**

【校訓】

**健康 自律 責任 礼儀**

【文責】

校長 辻 義孝

7月6日(土) 佐世保市体育文化館コミュニティセンターで開催された「佐世保市少年の主張大会」において、本校代表として、3年生の寺崎史織さんが出場しました。就労支援施設での職場体験学習をきっかけに、自らを肯定的に見つめようとするメッセージです。

**☆佐世保市青少年育成連盟賞受賞☆ 題名「これが私」山澄中学校3年 寺崎 史織**

「テニスしてる？」初対面の人からよく言われる言葉です。私の肌が屋外スポーツをしているように焼けて見えるからでしょう。ですが、私はテニスどころか、週末はほとんど外出しないインドア派で、日焼けとは無縁です。言われるたびに、周りの人より黒い自分の肌が嫌になります。

この考えが変わったのは、就労支援施設で職場体験学習をしたことがきっかけです。「障がい者に働く場を提供するところ」という知識で訪れた事業所。そこでは、アクセサリーやお菓子を作っていました。商品は販売されます。どのくらいの利益があるのでしょうか。尋ねてみると、「材料費や設備費などをさし引くと、利益はほぼゼロ。給料は国からの補助で賄っている」と聞き、私は驚きで動揺しました。そして、「働くことって何？」という疑問がわきました。その答えを教えてくれたのは、利用者の方々です。自分の得意なことを発揮できる場があり、自信に満ちあふれていました。「働くことそのものが幸せなんだ」と思いました。

このことを母に話すと、「以前は障がい者の方と一緒に働いていたよ。」と教えてくれました。そこで、一般企業での障がい者の雇用状況を調べてみました。民間企業における障がい者の雇用率は、現在2.5%、二年後には2.7%と法律で定められています。一定程度の効果を上げており、その基準は年々引きあげられています。つまり、一般の企業でも障がい者の働く場が確保されているということです。

それでは、就職後は何の問題もなく働くことができているのでしょうか。ある調査では、障がいをオープンにして就職した場合、その定着率は七割を超えています。しかし、オープンにしない場合は、約三割にとどまっているのです。障がい者自身も周りの人も障がいを受け入れることができれば、配慮がされて、働きやすい環境になるでしょう。反対に、オープンにしない場合には、自分を隠したまま生きることになります。これは自分を否定することです。

こう考えたとき、施設を利用している方々が笑顔で働いていた本当の理由が分かった気がしました。障がい者を支える職員の皆さんはいつも笑顔でした。私たち中学生と話すときも、障がいをもった人と接するときもその態度や口調は変わりません。障がいという個性を持った一人の人間として接していました。さらに職員の皆さんは「利用者の方から学ぶことも多い」とおっしゃっていました。

自らもありのままの自分を受け入れ、周りの人たちもまた自分を受け入れ支えてくれる、両方からの理解は、自分自身を肯定することにつながっています。働くこと＝幸せではなく、自分を認め必要としてくれる場の存在こそが幸せであり生きがいなのです。

私は、今まで自分の肌をどうしても肯定的に受け入れられませんでした。しかし、この体験を経た今、あのとき出会った人々のありのままの自分を受け入れ、胸を張っている姿に、背中を押されるような感覚になります。自分の弱さをさらけ出すのも相手の個性を受け入れるのもそう簡単ではありません。でも、これからずっと向き合い続ける自分を、自分が好きになれないでどうする。相手の良さに気づくことは少しの努力でできるはずです。肯定の積み重ねが「誰もが自分らしく生きる社会」に確実に繋がります。周りとは違うからといって怯えなくていいのです。自分と違うからといって疎まなくていいのです。

私の小麦色の肌は、活発で明るい性格に見え、初対面でも話しかけやすい印象を与えてくれるものかもしれません。嫌だったこの肌の色もそんなに悪くないかもしれない。私自身が肯定することが私を輝かせる一歩になります。ありのままの自分を好きになりたい。これが私だから。